

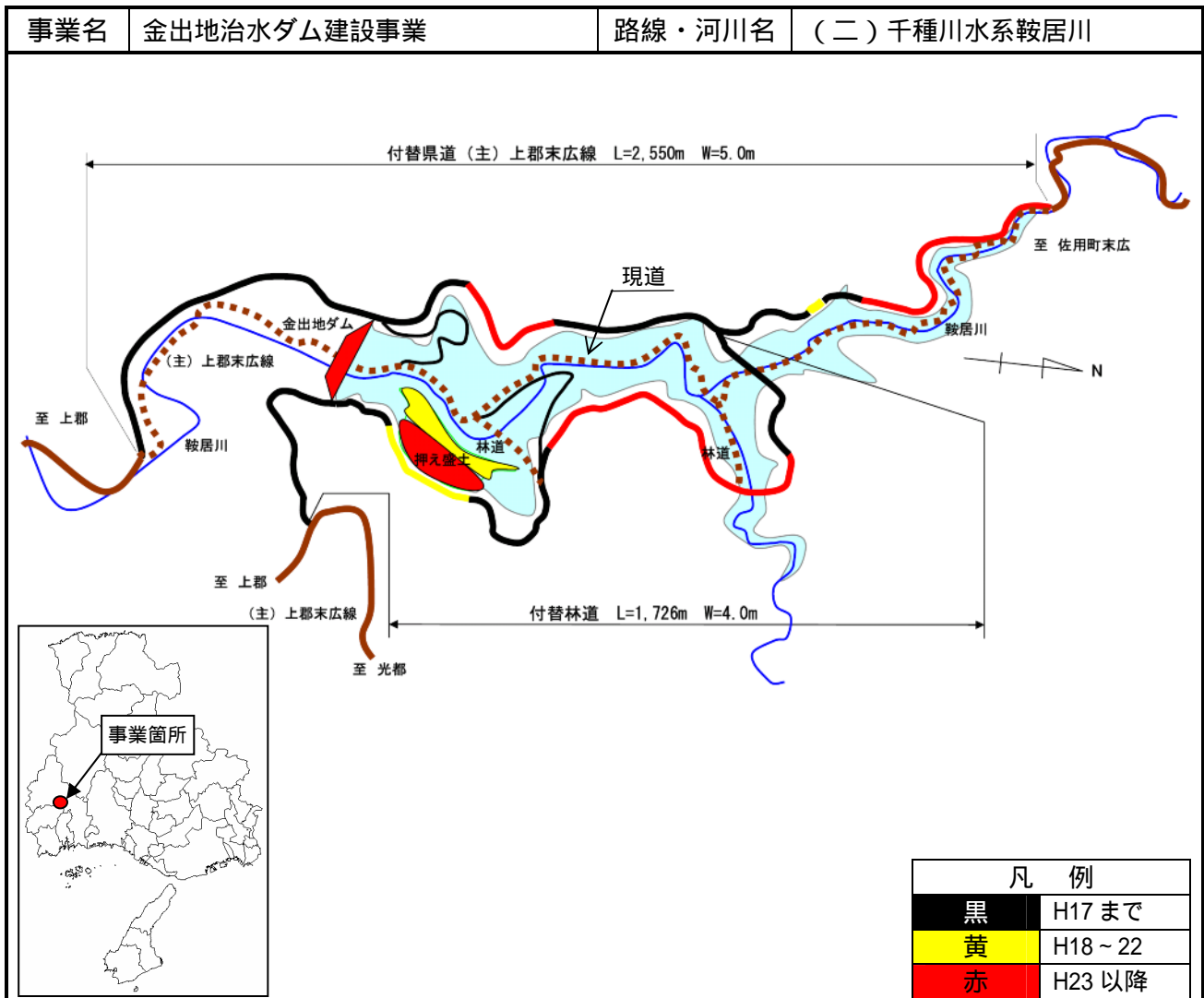
継続事業評価調書  
【金出地ダム事業】

土木局河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 小西 克彦 (河川開発係長 谷口徳男)		内線	4408 (4433)
事業種目	ダム事業	新規評価年度	-		現計画	前回再評価時点
事業名	二級河川千種川水系鞍居川 金出地治水ダム建設事業	事業採択年度	H2	総事業費	170 億円	170 億円
		着工年度	H2	内用地補償費	5.3 億円	5.3 億円
事業区間	赤穂郡上郡町金出地	再評価年度	H11 H16 H17	完成予定年度	H26	H24
所在地	赤穂郡上郡町金出地			進捗率 (内用補進捗率)	48% (100%)	42% (100%)
				残事業費	84.9 億円	99.2 億円
事業の目的			事業内容			
鞍居川沿川の洪水被害を防除し、河川環境の保全等に必要な維持流量の確保及び既得かんがい用水等の安定化を図るため、金出地ダムを建設する。			現計画		前回(H17)	
			型式 ダム高 堤体積 総貯水容量 ダム計画規模	重方式コンクリートダム 62.3m 152千m <sup>3</sup> 4,700千m <sup>3</sup> (治水安全度)1/60 〔負担割合 国: 1/2, 県: 1/2〕	重方式コンクリートダム 62.3m 149千m <sup>3</sup> 4,700千m <sup>3</sup> (治水安全度)1/60	
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H21年12月、国は「できるだけダムにたよらない治水」へ政策転換するとの考え方に基づき、現在事業中の全国のダム事業について検証を行うとの考えを示した。</li> <li>・H22年9月、国土交通大臣から金出地ダムの検証に係る検討（個別ダム検証）の要請を受け、検証に着手 10月 金出地ダム検討会議を開催し検証に着手(1月末までに5回開催) 2月 県の対応方針（素案）のパブリックコメント手続きを実施（2/8～2/21） 3月 第6回金出地ダム検討会議を経て、県の対応方針（案）を作成</li> </ul> <p>【前回評価時点からの事業計画の変更概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地質調査、減勢工の模型実験等に基づき詳細設計（H20）を実施した結果、堤体積が152千m<sup>3</sup>となった。</li> <li>・付替道路の内、ダム本体工事着手に必要な区間の整備がH22年度末に完了することから、引き続き本体工事に着手し、H26年度末の事業完了を目指す。これにより、完成予定年度をH24年からH26年に延伸する。</li> </ul>					
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H2年 4月 建設事業開始 事業目的：洪水調節 流水の正常な機能の維持 水道用水 用地買収完了（37.8万m<sup>2</sup>）</li> <li>・H14年 3月</li> <li>・H17年 2月 播磨高原広域事務組合が金出地ダムによる水源開発の中止を決定(H15.1)を受け、千種川委員会に設置した鞍居川部会においてダム計画の見直しを行い、「金出地ダムの建設を継続し、治水効果を早期に発揮させることが望ましい」とする最終報告を採択</li> <li>・H17年 5月 公共事業等審査会において「金出地ダム建設事業は、洪水調節と流水の正常な機能の維持を目的とした治水ダムとして計画を見直し、継続することが妥当である」との審査結果が出された。</li> <li>・H18年 4月 治水ダムとして事業再開 事業目的：洪水調節 流水の正常な機能の維持</li> <li>・H21年度末 付替道路：4,276mのうち2,656m施工済み（進捗率62%）</li> <li>・H22年度以降 残る付替道路(1,620m)についてはH24年度末完了予定 ダム検証に係る国の判断を待って、ダム本体工事へ着手予定</li> </ul>					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見及び 対応方針 (H17年度再評価)	【審査会意見】本事業の推進と併せて、治水計画の前提である流；【対応方針】間伐などの適切な森林管理や域内の適切な森林管理及び保全が実施されるよう努められたい。保全の実施に向けて、関係部局との連携を図っている。					
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鞍居川は流下能力が低く、S51年台風第17号で427戸、H16年台風第21号で411戸が浸水する等、沿川は幾度も被害を受けており、抜本的な治水対策が必要である。</li> <li>また、平成6年の夏季などに深刻な農業用水不足に見舞われたことや、近年、河川の水量が減少傾向にあることから、流水の正常な機能の維持を図る必要がある。</li> </ul>					
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ダム検証では、河川整備計画(案)の目標の達成に向けて、事業中の金出地ダムを含む案（金出地ダム＋河道改修）とダムを含まない代替案について評価した結果、金出地ダムを含む案が、環境への影響は比較的大きいが、比較的低コストで、地域の理解を得られていることから実現性が高く、早期に治水・流水の正常な機能維持の効果が得られるため最も有効な対策であるとした。〔詳細は、別添資料参照〕</li> <li>・金出地ダム事業に係る用地買収は完了しており、本体工事着手に向けた事業執行環境も整っていることから、ダム建設により、早期に以下の整備効果が発揮できる。</li> </ul> <p>【治水】治水基準点（千種川合流点：建武橋）における河川整備計画(案)の目標流量（H16.9台風21号実績、治水安全度約1/10）420m<sup>3</sup>/sのうち、70m<sup>3</sup>/sの洪水調節が可能となることから、河川改修のみで目標達成しようとする場合に改修が必要となる8.8kmのうち、3.5kmの区間は現況河川断面で目標流量を安全に流下させることができ、浸水戸数を16戸、浸水面積を18ha軽減する。</p> <p>【流水の正常な機能維持】渇水時には金出地ダムから補給することで、利水基準点（ダム地点）において維持流量及び既得灌漑用水等で必要となる水量0.081m<sup>3</sup>/s(かんがい期6/20～9/30)の安定的な確保が可能</p>					
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比(ダム事業) B/C=1.90</li> <li>・ダム湛水などによる自然環境への影響を極力低減するため、環境影響評価の結果(H5年度実施)に基づき、動植物等の調査結果と学識経験者からの指導をもとに、地域と連携し、貴重種(マヤラン等)の移植など環境保全対策を行いながら事業を進めている。供用後も引き続きこれら貴重種の保全・モニタリング等を継続実施し、周辺環境への影響の軽減に努める。</li> </ul>					
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H16年9月台風第21号により鞍居川流域で甚大な被害が発生したことやH21年8月台風第9号では、千種川上流域及び支川(佐用川等)で再び甚大な被害が発生したことから、支川鞍居川の安全性確保のためダム事業の早期完成を求める地元要望が極めて強く、優先性は高い。</li> </ul>					
再評価の結果	事業継続	左の理由	金出地ダムについては、用地買収が完了するなど本体工事着手に向けた事業執行環境が整っており、鞍居川流域における「治水」「流水の正常な機能の維持」に対する整備効果を早期に発現することが可能なことから、継続して事業を実施する必要がある。			

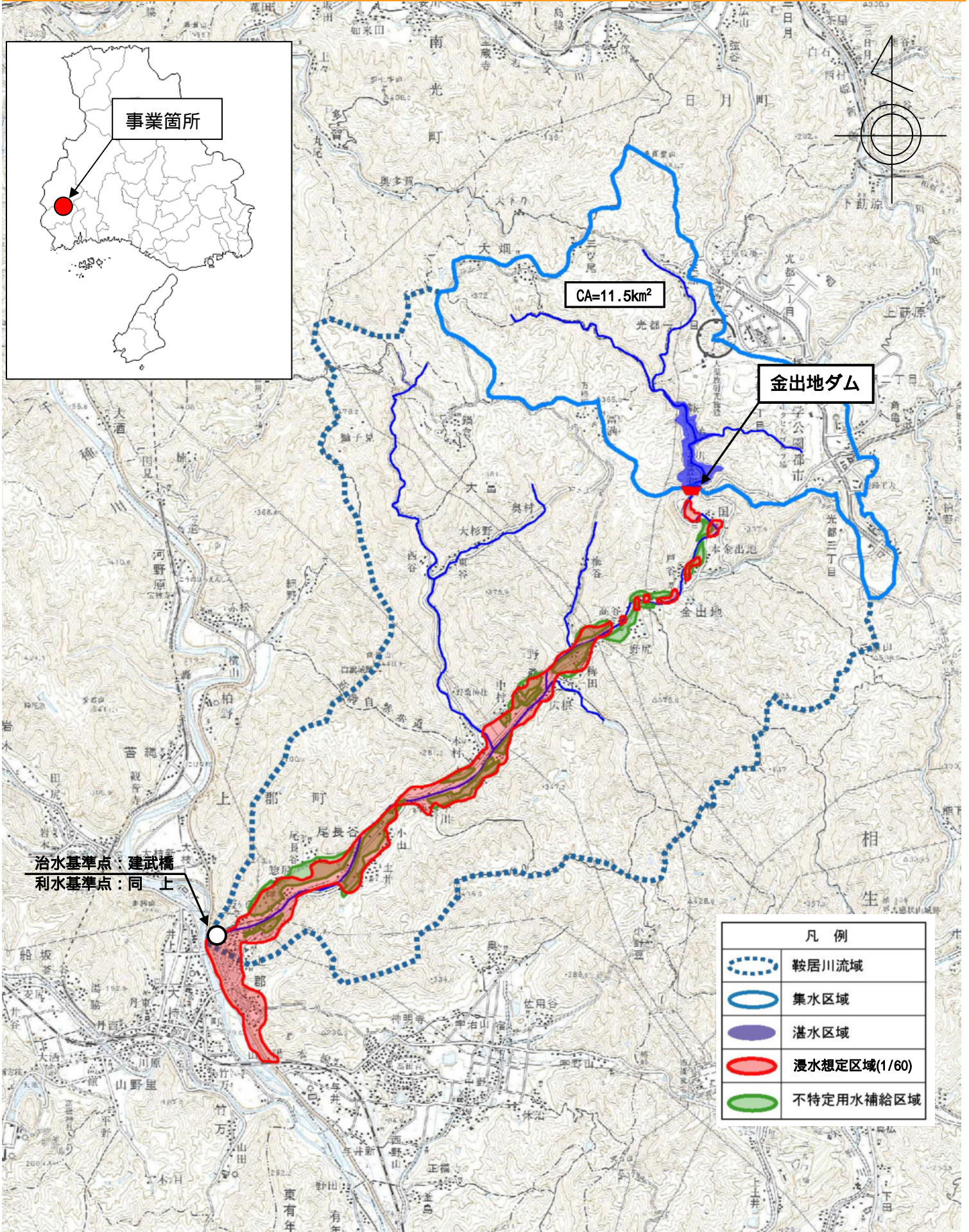
## 事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第4回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体	<b>H2～H27年度 26年間 【事業費＝170.0億円】</b> 地質調査、環境調査、水文調査、用地買収（A＝38万㎡） 付替道路（L＝4,276m） ダム本体工事、管理設備工事	—
前回 再評価まで （実績）	<b>H2～H17年度 16年間 【事業費＝71.6億円】</b> 地質調査、環境調査、水文調査、用地買収（A＝38万㎡） 付替道路（L＝2,535m）	—
前回評価 ～22年度	<b>H18～22年度 4年間 【事業費＝13.5億円】</b> 地質調査、環境調査、水文調査 ダム本体設計、放流設備設計 付替道路（L＝180m）	—
今後 4年間 （予定）	<b>H23～H26年度 4年間 【事業費＝84.9億円】</b> ・環境調査、保全対策の実施 ・H23年度にダム本体工事着手 ・H24年度に放流設備、管理設備に着手 ・H26年度ダム本体 完成予定	—



# 金出地ダム 計画概要図



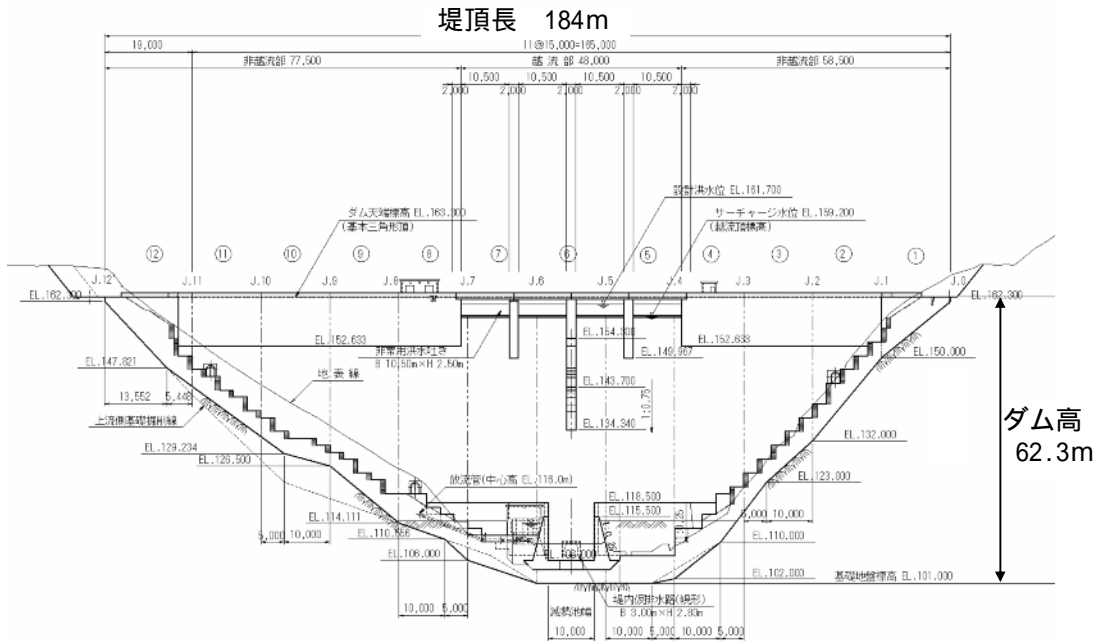


# 金出地ダム 計画概要

金出地ダム完成モンタージュ写真



下流面図



容量配分図



# 金出地ダム 被害状況

状況写真撮影箇所

